大分合同新聞

ワークシート　　年　　組　名前

災害対策に関するコラムです。読んでみよう。

① 2018年の西日本豪雨では、被災地の住民約860万人に避難指示・勧告が出されましたが、実際に行動したのは何%の何人だったでしょう？

わずか0.47%の約4万人。

②災害多発時代に入った今、重要なことは何ですか？

防災に対する住民の意識。

東西南北

2020.6.12

県内の首長を対象に災害対策研修を開いたこともある「人と防災未来センター」（神戸市）の河田恵昭センター長が「逃げる文化」を提唱している。近年頻発する豪雨から身を守るには、とにかく「逃げる」を文化にしようという▼2018年の西日本豪雨では、被災地の住民約860万人に避難指示・勧告が出たが、実際に行動したのはわずか0・47%の約4万人。その結果、被害を大きくしている。19年の東日本を襲った台風19号では、首都圏を流れる荒川も堤防決壊の危機にあったという。台風による高潮のピークが川の最大増水時と重なれば、氾濫していたらしいのだ。まさに「偶然」が住民を救っている▼河田センター長によると、戦後の15年間の災害犠牲者は、年平均で約2300人もあった。その後の35年間は約280人と減少したが、19年までの24年間は1400人と再び増えている。災害多発時代に入ったことを忘れたくない。それだけに防災意識は重要である▼中でも都合の悪い情報に「自分だけは大丈夫だろう」というバイアス（偏見）が危ない。頭で分かっても体が動かない。だからこそ、考える前に自然と体も動く「文化」とする意味があるという。「絶対安全」はない。気象台や行政の情報を自らチェックし、早めに「逃げる」を最優先にしたい。県内も梅雨入りである。

2020年6月12日付　大分合同新聞1面

③「人と防災未来センター」の河田センター長が「逃げる文化」を提唱している理由は何ですか？

都合の悪い情報に「自分だけは大丈夫だろう」というバイアス（偏見）が危ない。頭で分かっても体が動かない。だからこそ、考える前に自然と体も動く「文化」にする必要がある。

④このコラムの筆者が一番言いたいことは何かを考え、コラムに見出しを付けてみましょう。

災害から「逃げる文化」を、早めに「逃げる」を最優先に…など。